

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

斑点米カメムシ類の発生状況（技術情報第3号）について（送付）  
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。  
記

1. 対象農作物 早期水稻
2. 対象病害虫 斑点米カメムシ類  
(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、  
シラホシカメムシ、アカスジカスミカメ)
3. 斑点米カメムシ類の発生状況（別紙参照）
  - (1) 上天草市松島町において早期水稻周辺のイタリアンライグラスですくい取り調査を行い、5種の斑点米カメムシが確認された。すくい取り調査での捕獲数は昨年並であり、特に問題となるクモヘリカメムシの捕獲数が6月2日調査時より急増している。
  - (2) 上天草市松島町の早期水稻（6月22日・穂ばらみ期）におけるすくい取り調査では、5圃場のうち3圃場でクモヘリカメムシが確認された。出穂前の水稻でクモヘリカメムシが確認されており、今後周辺雑草等から水田への飛来が増加し、水田内の斑点米カメムシ密度が高くなると考えられる。
4. 防除対策
  - (1) 出穂期に見回り畦畔雑草や水稻で成虫を見かけたら、穂揃い期に防除を行う。また、発生が多い場合は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。
  - (2) 斑点米カメムシ類の加害は少数でも品質に影響を与えるので（出穂期のクモヘリカメムシ密度が1～2頭/100㎡を超えると斑点米率は0.1%以上となる）、出穂期に成虫を見かけたら防除を徹底する必要がある。
  - (3) カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉防除すると効果が高い。
  - (4) 水稻出穂後における周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため行わない。
  - (5) 農薬の使用にあたっては、農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農作物の生産に努める。

(別紙)

すくい取り調査における斑点米カメムシ類の捕獲数(上天草市松島町)

(1)調査対象: イタリアンライグラス  
平成16年度

調査日	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカスジカスミカメ	シラホシカメムシ
4/14	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
4/21	0.0	0.7	0.0	0.0	0.1
5/6	0.0	0.6	0.0	2.1	0.1
5/12	0.0	1.1	0.1	3.9	0.0
5/18	0.1	1.3	0.0	4.7	0.1
5/27	4.4	2.3	0.1	0.7	0.1
6/2	14.5	1.8	0.4	1.8	1.2
6/9	11.9	1.7	0.1	11.9	0.4

注1. 10回振り(片道)の平均値

注2. 数値は成虫数

平成15年度

調査日	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカスジカスミカメ	シラホシカメムシ
4/10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4/14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/9	0.0	0.5	0.0	2.4	0.0
5/16	0.0	0.1	0.0	2.0	0.0
5/21	2.2	1.2	0.0	4.4	0.1
6/3	11.1	1.0	0.1	5.0	0.1
6/10	1.1	0.8	0.1	40.6	0.3
6/25	0.6	0.5	0.0	40.0	0.3
7/2	0.1	1.6	0.0	17.8	0.1

注1. 10回振り(片道)の平均値

注2. 数値は成虫数

(2)調査対象: 水稻  
平成16年度

	クモヘリカメムシ
水稻1	2
水稻2	0
水稻3	0
水稻4	2
水稻5	6

注1. 調査日: 6/22(穂ばらみ期)

注2. 60回振り(片道)の値

注3. 斑点米カメムシは1種(成虫)のみの捕獲

平成15年度

	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	アカスジカスミカメ
水稻1	2	1	1
水稻2	1	0	0
水稻3	1	0	0

注1. 調査日: 6/25(穂揃い期)

注2. 60回振り(片道)の値

注3. 斑点米カメムシは3種(成虫)のみの捕獲